平成23年度

＜その他，取組に特徴のある事例＞

○鳥獣被害防止と景観保全への取組

１．集落協定の概要

市町村･協定名	鹿児島県中種子町（なかたねちょう） 御開（おひらき）			
協定面積 1.7ha	田（100%） 水稲	畑	草地	採草放牧地
交付金額 28万円	個人配分　30%			
	共同取組活動（70%）	役員報酬		7%
		農道・水路管理費		42%
		農地管理費		11%
		その他(会議費等)		10%
協定参加者	農業者　８人			開始：平成17年度

２．取組に至る経緯

当地域は、シカによる農作物への被害が発生しており、それぞれ個人で対策を講じてきた。しかし、近年は被害が広域化するとともに、担い手不足や農家の高齢化の進行によって農家個々での対応が難しくなってきたところである。

そこで、集落内での話し合いを進め、中山間地域等直接支払制度を活用し、鳥獣被害対策を講じるとともに、共同で水路・農道の整備及び管理を行うため、平成17年度から中山間地域等直接支払制度に取り組んできたところであり、第３期対策も引き続き本制度に取り組むこととなった。

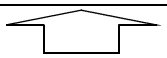
３．取組の内容

水田周辺一帯に防護ネットを設置し、シカによる被害の軽減を図っている。また、当該地域は昔ながらの石垣等が残っており、海へ向かっての眺望等美しい景観が望めることから、耕作放棄地対策や景観保全のため、水田周辺、農道などの草払い作業を年２回程度、また、用水路・取水口の点検・補修作業を行っている。特に梅雨時や台風等の雨量が多い時期には随時見回りを行う等、農用地の保全と景観の維持を図っている。水田の管理が行き届いているため、泥水などが海へ流れ出ることがなく、環境面にも良い影響を与えている。

【東シナ海を望む眺望と美しく整備された石垣】

【防護ネットによるシカ被害対策】

［集落の将来像］
○ 当協定地域は昔ながらの石垣等が残っており、また海へ向かっての眺望等、非常に景観が良い地域である。これをグリーン･ツーリズムや観光などに生かし、地域の活性化に繋げたい。



［将来像を実現するための活動目標］
○ 共同で支え合う集団的かつ持続可能な体制整備を行い、耕作放棄地の発生防止を図る。

［活　動　内　容］

農業生産活動等

農地の耕作・管理（田1.7ha） 個別対応	農地法面の定期的な点検 （年２回及び随時） 共同取組活動
水路・農道の管理 ・水路1.7㎞ 補修･点検(年1～2回、随時) ・農道など 年２回 草刈り 共同取組活動	鳥獣被害防止対策 （シカによる農作物被害防止のため防護ネットを設置） 共同取組活動

多面的機能増進活動

周辺林地の下草刈り （約0.3ha、年１回） 共同取組活動
景観作物の作付 （景観作物としてレンゲを作付け） 共同取組活動

集落外との連携
○ 行政や観光部門･グリーン･ツーリズム推進協議会との連携

４．今後の課題等

当協定地域は過疎化、高齢化が急速に進んでおり、担い手不足に陥りつつある。このため、協定者同士の話し合いや周辺地域との連携を通じた耕作放棄地の発生防止に取り組んでいく必要がある。

［第２期対策の主な成果］
○ 水路の改修・管理作業の効率化（L=1,700m）
○ 土壌流亡の防止による環境負荷の低減
○ 地域内におけるコミュニケーションの活性化